

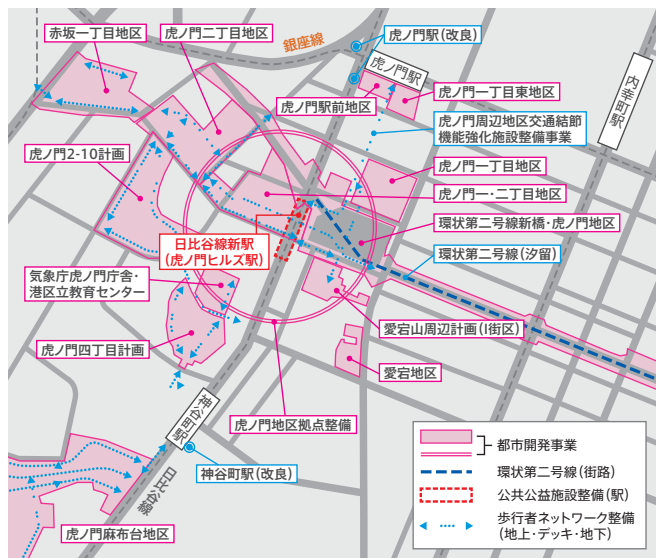
日比谷線新駅整備(虎ノ門ヒルズ駅)

周辺まちづくりとの連携による交通結節機能整備

位置図



事業概要



事業名称：地下鉄日比谷線新駅整備事業
事業主体：独立行政法人都市再生機構
設計工事：東京地下鉄株式会社
主要用途：地下鉄駅
事業期間：平成26年度～令和9年度(予定)

背景・課題

都市機能更新の必要性

- 周辺では多くの都市開発が進められており、新駅周辺においても、大街区化等による高度利用を図ることが求められている。

都市基盤整備の必要性

- 周辺開発による居住者、就業者人口増加に伴いエリア全体の交通量の増加が予想されるため、歩行者の安全性やアクセス性の向上等が必要

エリアの全体整備計画

都市の国際競争力強化

- 環状第二号線新橋・虎ノ門周辺地区は、特定都市再生緊急整備地域において、「生活環境を備えた国際的なビジネス・交流拠点の整備」と「交通結節機能の強化」を図ることが位置付けられている。

事業のポイント

交通結節機能の強化

- 環状第二号線及び、周辺開発で整備されるバスターミナルや地下歩行者通路等と連携する新駅を令和2年に供用開始することで、交通結節機能と地域の回遊性を強化する。

駅とまちの一体的な整備を実施

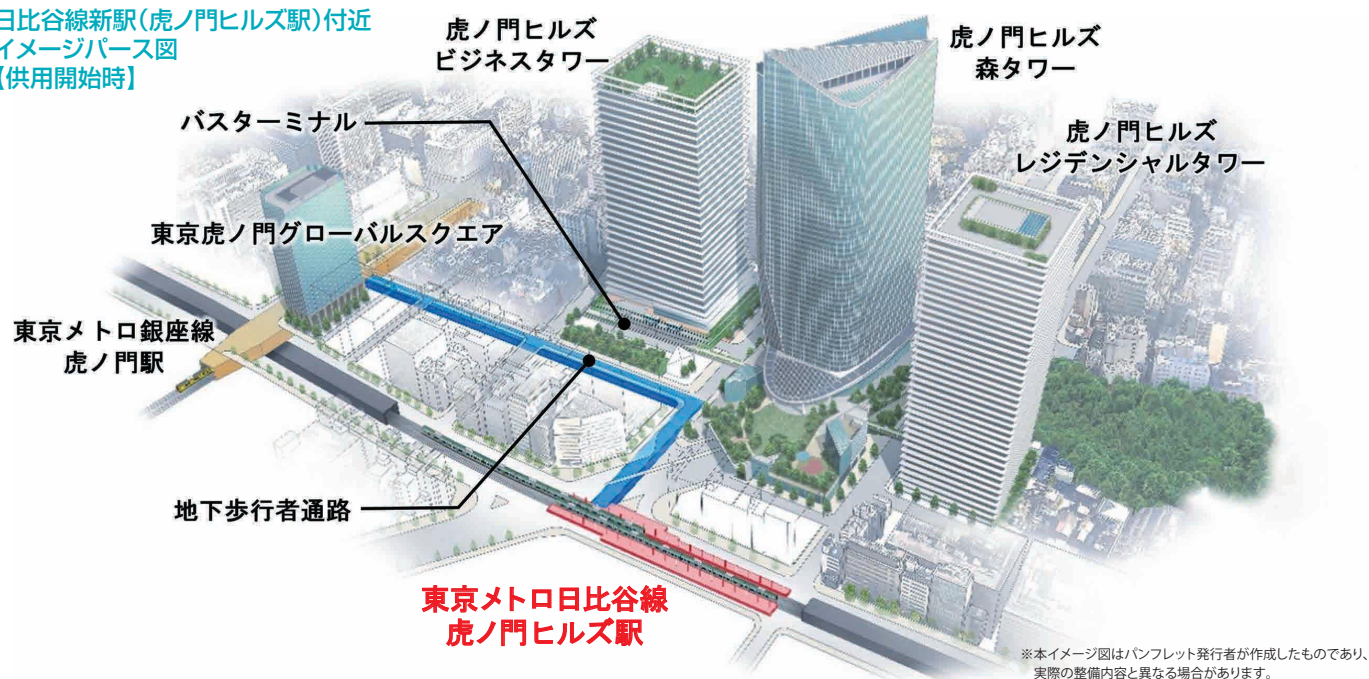
- URが虎ノ門地区拠点整備事業と併せ、事業主体となることで、関係機関及び周辺のまちづくりとの連携・調整を図りながら、まちと一体となった新駅整備を実施する。
- 周辺開発による駅広場や歩行者ネットワークの整備が進められており、交通機能と都市機能が連携・補完しつつ、駅とまちをつなぐ空間の創出を図る。

経緯

- 平成26年度 ● 特定都市再生緊急整備地域 東京都心・臨海地域（環状第二号線新橋・虎ノ門周辺地区）整備計画策定（URが日比谷線新駅整備の実施主体として決定）
- 平成27年度 ● 都市計画変更（東京都市計画都市高速鉄道第2号線）
● 工事開始
- 令和2年度 ● 供用開始
- 令和5年度 ● 隣接する再開発ビルとの接続

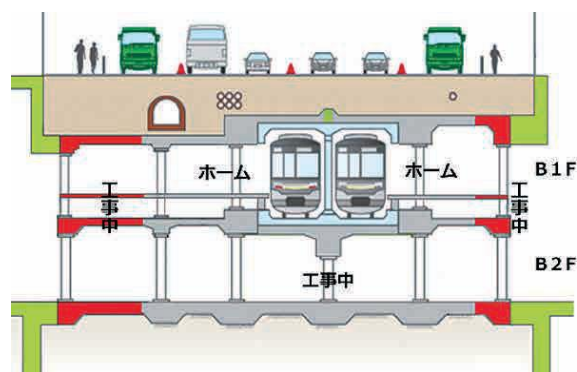
整備の内容

日比谷線新駅（虎ノ門ヒルズ駅）付近
イメージパース図
【供用開始時】

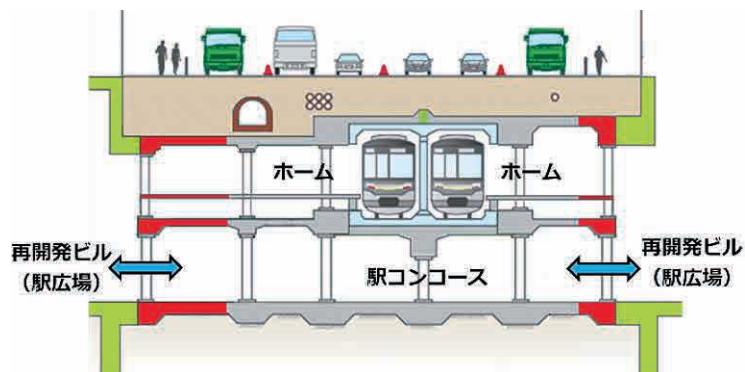


環状第二号線新橋・虎ノ門地区は、霞ヶ関の官庁街に隣接する東京を代表するオフィス街の一つ。環状第二号線の整備と一体で進められた高層複合プロジェクトに続き、日比谷線新駅（虎ノ門ヒルズ駅）の整備とあわせた周辺開発の検討を進めることで、国際的ビジネス拠点の形成を目指す。

供用開始時イメージ（R2.6～R5.7）



再開発ビルとの接続時イメージ（R5.7～）



基礎情報

- 【所在地】 東京都港区虎ノ門一丁目（東京メトロ日比谷線霞ヶ関駅～神谷町駅間）
- 【施工方法】 開削工法 アンダーパニング工法
- 【駅形状等】 相対式ホーム2面、地下1階：ホーム、地下2階：改札及びコンコース、ホーム延長：144m